

小国のわらび取り

小村崎に転居して三年過ぎた頃から、静子さんの生家から話があって毎年六月頃小国にワラビ取りに行った。最初は洋一のワゴン車で家族と一緒に乗せて貰って行ったが、三年目あたりから妻と二人だけで行った。その後二・三回矢附の義弟夫妻とワゴン車で四人して行った事もある。

九時の開園に間に合うように、朝六時に出発、白石で国道一一三号線に入り、小原温泉を眼下に七ヶ宿ダムサイドを通り、山形県に入り、一路13号線を西進、高畠町、南陽市を通り、小国町市街の少し手前から左折、約二十分で、静子さんの生家に着く。ここから二・三分でワラビ園入り口に着く。出発してから約一時間三十分、私の軽自動車だと少し多く掛かる。

入園料千五百円を払い、開園と同時に橋を渡り、登り坂を我先にと駆け上がり、二・三分でワラビが密生している山に着き取り始める。相当広い急斜面と平地が半々にある。一人十五キロ迄、制限時間は二時間。百人位の人が園内に散らばる、高い所から眺めると、大勢居るとは思えない程だ。

一時間半位で充分採取、十キロ以上リックに積み下山、駐車場前の広場には、テントを張ってゴザが敷いてあり、長テーブルで休み場が出来てある。無料の山菜汁で接待され、持っていた弁当を広げる、ビール、ジュースは安く売っているから買って喉を潤し、よもやま話しに花を咲かせ、静子さんの生家からお土産を戴き、「来年も又来て、けさい」の声に送られ、お昼過ぎ帰途につく。

帰って早速ワラビを選別。五十本位ずつ束ね、隣近所、親類に配り、残りは茹でて保存する。私達も体は丈夫で元気だったから、一日のリクレーションとして行けたが、四・五年前から、体力的に無理で行かなくなった。ワラビ取りに行き始めて三年後の頃、洋一家族四人と六人して泊まりに行った。新築したばかりで、居間は天井が高く、凝った建物だった。飯豊山麓まで足をのびしペンションに一泊した事がある。

静子さんの生家は小国町大石沢、都会の喧騒を離れた、山間の静かな部落、そして綺麗な谷川の流れば心を和ます。妻はあの澄んだ流れが自宅の側にあつたらと、何時も言っている。